

## 景観の意味づけにおける地理的思考に関する研究

著者	梁 炳逸
内容記述	筑波大学博士（教育学）学位論文・平成25年3月25日授与（甲第6545号）
発行年	2013
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/119996">http://hdl.handle.net/2241/119996</a>

氏 名（本籍）	梁 炳 逸（韓 国）
学 位 の 種 類	博 士（教 育 学）
学 位 記 番 号	博 甲 第 6545 号
学位授与年月日	平成 25 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科
学 位 論 文 題 目	景観の意味づけにおける地理的思考に関する研究
主 査	筑波大学教授 博士（理学） 井 田 仁 康
副 査	筑波大学教授 博士（教育学） 片 平 克 弘
副 査	筑波大学教授 教育学修士 江 口 勇 治
副 査	筑波大学准教授 博士（教育学） 唐 木 清 志
副 査	筑波大学准教授 博士（理学） 松 井 圭 介

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

### （目的）

本研究の目的は、地理教育における地理的思考に関する仮説を生成すること、具体的には、地理学の主要な概念である景観を通して地理的思考がもつ地理的意義を明らかにすることである。

### （対象と方法）

人の景観の見方を対象として、まずは景観の意味づけにおける地理的思考の理論的な枠組みを、主として地理学の先行研究から構築する。次に、思考を研究するための「概念的ツール」を、特に心理学の研究成果から導出する。さらに、地理的思考の思考過程を顕在化するための調査方法について、教育学などの先行研究から検討し、本研究の目的を達成できるような調査方法を独自に開発する。そのうえで、「概念的ツール」および調査方法である「改良した発話思考法」を用いて、「地理的思考の理論的な枠組み」を検証および精緻化し、地理的思考がもつ地理教育的意義を明らかにする。

### （結果）

地理的思考は、地理授業における表現力を育成するための土台を提供し、景観の科学的な意味づけは、地理授業において「景観スクリプト」を活用する機会を提供する。さらに、地理的思考は、地理教育の思考力教育における科学性への偏りを緩和させることができる。従来の地理教育学の研究では、地理授業の前後で地理的思考の変化がみられることは明らかにされてきたが、それがどのような過程でなされるのかといった研究はなかった。本研究は、上記のような理論的枠組みを構築し、調査方法を考案し、地理学の専門家と地理を専門としない人に調査を実施することにより導出された調査結果に基づき、以上のような知見をえた。この知見は、地理的思考がもつ地理的意義であり、地理的思考に関する仮説となる。

### （考察）

地理学においては、景観を客観的な対象として分析をしていたが、1980年代頃から、人文主義地理学の台頭により、景観は人間の主観によることが大きいという考え方がでてくる。本研究では、先行研究での成果から「景観の科学的意味づけ」と「景観の主観的な意味づけ」とに分類したうえで、地理的思考を「景観

に意味づけを行うことによって、未知の景観を既知の景観に、既知の景観をより意味豊かな景観に変化させる思考」とした。景観の意味づけにおいては「科学的」なものだけでなく「主観的」なものにも注目し、地理思考をみるべきであることを主張した。そのための「概念的ツール」として、認知心理学の成果を検討し、「処理資源」「知識の連結主義」「スクリプト」という三つの概念を整理した。スクリプトとは、特定の状況で一連のルーチン化・構造化された知識であるが、本研究では、特定の景観のみに対して、想起されやすくなった概念と感情情報の集合を「景観スクリプト」とし、これを地理的思考の調査のための概念的ツールとした。

さらに、地理的思考の思考過程を顕在化するための調査方法を検討した。先行研究では、地理的思考の変容を明きからしたものは多いが、それがどのような地理的な思考過程を通っているかについては明らかにされていない。それは思考過程を追究するための調査方法が確立されていなかったことが大きな要因である。そこで、教育学などでの先行研究を検討し、「発話思考法」を改良することで、地理的思考の過程を追究する方法とした。

概念的ツールと改良された発話思考法を用いて、「地理的思考の理論的な枠組み」を検証、精緻化した。地理の専門家と地理を専攻としていない者とを被験者として、景観写真にどのような意味づけをしていくのかを調査、分析した。2つ以上の場所の景観写真を比較することにより、「景観スクリプト」により、他の景観を意味づけることができ、これにより景観の科学的な意味づけを促進することがわかった。また、景観の主観的な意味づけにおいては、景観の意味づけを促進するための思考方略の役割を果たしている可能性があることを指摘できた。すなわち、主観的な意味づけから意味関係を形成したあとに、科学的な意味づけをおこなうという思考方略がみられたのである。さらに、地理学の専門家は、景観写真について多角的に考察することにより、収斂的な地理的思考と発散的地理思考とを使い分け、知識が連結していく過程が明瞭になった。こうした結果をとおして、上記のような結果が導出された。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

地理教育の研究として、従来明らかにされてこなかった、地理的思考の過程について、研究方法を考案し、実証したことの意義は大きい。地理学、教育学、心理学など多岐の学問分野にわたる研究をレビューし、そこから独自の研究方法を導出したことは、高く評価できる。また、それを実証することで、地理的思考に関する仮説、地理教育的意義を見いだしたことには高い独創性があるといえる。地理教育、社会科教育における学問的貢献は頗る高く、博士論文としてふさわしいと判断できる。

平成 25 年 2 月 13 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。